

参加費無料

公共建築の日・公共建築月間関連イベント

公共建築と市民社会

～人々の出会う場所としてのパブリックスペース～

平成30年11月21日(水)

開場17:30～

開演18:00～20:00

那覇市ぶんかテンプス館

4階テンプスホール

講師

古谷 誠章

建築家・早稲田大学教授

「写真提供：NASCA」

1955年生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。同大学院修士課程修了。早稲田大学助手、近畿大学工学部講師を経て、1994年に早稲田大学助教授に就任。1997年より現職(教授)。1986年から文化庁建築家芸術家在外研究員としてスイスの建築家マリオ・ポッタの事務所に在籍。1994年にNASCAを設立。2017年日本建築学会 会長。1999年「詩とメルヘン絵本館」日本建築家協会新人賞。「やなせたかし記念館」「會津八一記念博物館」「ZIG HOUSE / ZAG HOUSE」「近藤内科病院」「茅野市民館」「高崎市立桜山小学校」「小布施町立図書館まちとしょテラソ」「実践学園中学・高等学校 自由学習館」「熊本県山鹿市立鹿北小学校」「喜多方市新本庁舎」などで日本建築学会作品選奨受賞。「茅野市民館」で2007年日本建築学会賞作品賞、2011年日本芸術院賞受賞。2012年「小布施町立図書館 まちとしょテラソ」日本図書館協会建築賞、AACA賞受賞。2014年「実践学園中学・高等学校 自由学習館」日本建築家協会日本建築大賞受賞。

著書に「Shuffled 古谷誠章の建築ノート」(TOTO出版)「がらんどろ」(王国社)「マドの思想」(彰国社)「建築家っておもしろい 古谷誠章+NASCAの仕事」(文屋)「NOBUAKI FURUYA,179WORKS 1979>2013」(建築メディア研究所)など。



開催要旨

行政、教育文化、福祉等様々な分野に係わる各種の公共建築は、地域の人々の生活に密接な係わりを持ち、地域の活性化、生活・文化水準の向上、街並み・景観の形成等を図るうえで重要な役割を果たしています。

また近年、地域との係わりを図りながら、公共建築の整備や運営のあり方を考えるべきという気運が高まっています。

本年は、古谷誠章氏を招き、公共建築等の整備事例を通じて、パブリックスペースとしての公共建築物のあり方についての講演を開催します。

皆様のご参加をお待ちしています。



「写真提供：NASCA」

講演会参加申込書

以下の欄に必要事項をご記入の上、11月14日(水曜日)までFAXまたはE-mailにてお申し込み下さい。
ただし、定員(200名)に達し次第、受付を終了いたします。

申込書送付先・お問い合わせ先
(一社)公共建築協会 沖縄地区事務局
TEL:098-879-2097
FAX:098-878-0032
E-mail:taketomi-n@shimatate.or.jp

組織・会社名:

ふりがな
申込担当者:

TEL:

FAX:

ふりがな
参加者氏名:

ふりがな
参加者氏名:

ふりがな
参加者氏名:

ふりがな
参加者氏名:

本講演会は、下記CPD制度の共通認定プログラムです。

建築CPD情報提供制度、JIA CPD制度、建築士会CPD制度、建築設備士関係団体CPD制度
APECアーキテクト、APECエンジニア、建築施工管理CPD制度、建築・設備施工管理CPD制度

【主催】「公共建築の日」及び「公共建築月間」沖縄地区実行委員会

構成員〔一社〕公共建築協会 沖縄地区事務局 〔公社〕沖縄県建築士会 〔一社〕沖縄県建築士事務所協会
〔公社〕日本建築家協会 沖縄支部 〔一社〕沖縄県設備設計事務所協会

【後援】内閣府沖縄総合事務局 沖縄県 那覇市

11月11日は「公共建築の日」、11月は「公共建築月間」です。



平成30年度「公共建築の日」及び
「公共建築月間」関連イベント

施設見学会のお知らせ

～那覇市本庁舎～



那覇市建築工事課

・見学会日時：平成30年11月21日(水) 15:00～16:30

・申込み方法【参加費：無料】

申込みは不要です。14:50までに受付場所にお集まり下さい。

※本見学会のための駐車場は確保しておりません。

周辺駐車場や公共交通機関のご利用をお願いします。

・受付場所

那覇市役所 10階 1001会議室

・見学会概要

設計担当者(予定)が当該施設をご案内します。

・施設概要

所在地：那覇市泉崎一丁目1番1号

構造・規模：鉄筋コンクリート造 一部プレストレストコンクリート造（免震構造）

地下2階 地上12階建て 延面積 38,585.73㎡

・計画概要

那覇市中心部に位置し、沖縄県の顔とも言うべき建物とし、外装の緑のルーバー等で効果的な演出をした。前面空地の確保、高層階のセットバックによる圧迫感低減や、市民参加の既存樹木の移植や緑の里親を呼びかけるなど、市民の新庁舎への愛着を醸成するなどの取り組みを行った。また、免震構造を採用する事で、安全性と防災拠点機能を確保した。



案内図